

## “相撲”わが青春

高16回  
西村 紘文  
(旧姓: 小笠原)

二月初旬、県陵同窓会の小沢広報部長から「今、相撲人気が再燃してきている。相撲のことと言えば小笠原に何か書いて貰おうと、広報部の企画方針が決定したので是非執筆寄稿をお願いしたい。」旨の電話を戴いた。頼まれれば嫌だと断りきれない性分なので快くお引き受けすることにした。

昭和三十六年四月の入学時に  
県陵三大精神なる校訓碑に目が  
留まる。

○質実剛健であれ

○大道を闊歩せよ

○弱音を吐くな

が、今でも私の生活信条の根底にあるような気がする。後になつてわかったことであるが、私の大学の先輩である西川久壽男先生の揮毫によるものであることを知った。

根っからの相撲好きな私は、何とか県陵に相撲部を創りたい一心で級友の大澤正明君と相談し、相撲部創設に情熱のある同志を勧誘した。その中に伴君、中野君（現在大塚）、波場君、上の学年から松本君、鎌崎君、渡辺君、更に同学年の佐原君、西牧君、一山君、笠原君、芦沢君、大池君、岡田君、それに大澤君と私の15名が集まり、生徒会に相撲部創設の嘆願書を提出した。

一年目は同好会として認可されたものの予算が貰えず、旧音楽室の空き地に自分達で土を運び整地をし、俵を埋めての土俵作り、桜の木の枝から枝に稲架木を渡し、雨風を凌ぐテントを



き継いでからも有力な選手が育ちインターハイに出場する実績を挙げ、県陵相撲部黄金時代を築きあげたのである。

当時の大会参加出場校は木曾西、木曾山林、梓川、松商学園、深志、南農、丸子実業、更農、松本県ヶ丘の九校、A B 2チーム18の90名による県大会で土俵に整列すると壮観であった。

今後、アマチュア相撲も五十年前の盛り上がりのある県高校相撲界になるよう復活してほしいと願いたいと思うのは、私ばかりではないと思う。

架ける等、皆で力を合わせ文字通り手作りの相撲場（土俵）を構築したのである。予算も貰えず身銭を切つて作りあげた相撲場だから愛着もあった。稽古廻しは大澤君の下宿先の教会が深志高校相撲部員のたまり場であったこともあり、深志高校から借りることができた。人の禪で相撲を取るといふのは将にこれを言う。

私の担任の先生は英語の西澤勝男先生で、相撲部の顧問も受けて下さり、大変感謝している恩師である。創部二年目の昭和三十七年の県大会ではライバル深志を圧倒し団体優勝に輝いた。その後、後輩の丸山雅尋君に引

私の青春時代、相撲部の無かった県陵に同好の士と共に初めて相撲部を創設したことは私の唯一の自慢と思っている。同じ気持ちで頑張った仲間に出会えたことを感謝している。

現在、古稀となり、自宅の離れに相撲趣味の館を開館し、プロアマ問わず相撲関係資料の展示をしている。観に来て頂けたら嬉しい。

(連絡先 電話 0263-72-2031 西村まで)

## ふるさと通信

〔県陵の周りの動物たち〕

高20回  
上條 恒嗣

今回の「ふるさと通信」は趣きを変えて、県陵周辺の野生動物に目を向けてみましょう。信州松本も多分に漏れず地球温暖化の影響を受けて、哺乳類や、鳥類、昆虫など、以前に比べて多くなつたものや元氣の出たものがあります。県陵の西側は現在人工芝のサッカー場となつていますが、数年前まではうっそうとした桑畑で、キツネの姿を良く見かけました。今でも、近くのあがたの森周辺から少し南の薄川でタヌキ、ハクビシンを、時には、イノシシやイタチも見かけます。以前はこれらの哺乳類は山間地の代表的な動物でしたが、市街地でも見かけるようになりました。鳥類では、あがたの森の池周辺でカワセミやアオサギが身近に見られ、公園内や県陵の玄関前で夏にはクワガタやキビタキ、冬では地上で数羽のシロハラ、公園内のヒマラヤスギでシメ、公園内のヒマラヤスギでシメ、公園内の群れ、また、稀にケヤキに止まるフクロウやオオタカの姿も見かけます。困っているケイスとして4000羽を超えるハシボソガラスが時々、としてヒマラヤスギに居つき、糞や鳴き声に地元町会が悲鳴を上げていることがあります。昆虫では南方系の蝶類を普通に見かけるようになり、セミも以前には生息していなかったヒコガシが多くなくなりました。このところカラス類、シカ、サル、イノシシ等の被害の報道が多くなってきましたが、以前、大雪や異常な寒さなどで餌が取れず、弱い個体は淘汰されてきた時代から、今は彼らにとって過しやすいものとなつてきているようです。